弘大農学生命科学部 同窓会会報

第２８号

平成２２年６月　発　行
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL ０１７２－３６－２１１１
FAX ０１７２－３９－３７５０
振替 ０２３４０－７－５６４
印刷（株）　笹　軽印刷

弘大創立60周年
新たな明日へ
ご協賛に謹謝

同窓会長　三　上　　巽（たつみ）

6,200余名の同窓の皆さん

弘前大学・農学生命科学部の同窓の皆さん、如何お過ごしでしょうか。私共の母校・弘大農学生命科学部は昭和30（1955）年７月に創設されて以来55年目を迎えましたが、21年度卒業された195名を含め6,214名の同窓生を見るに至りました。

白神自然観察園

一方、戦後まもない昭和24（1949）年に創立された弘前大学は昨・平成21（2009）年に創立60周年という記念すべき年を迎えたことから、本学部の同窓の皆様方には、平成17（2005）年春に学部創立50周年記念事業で、多大なる寄付協賛を戴いて余り間をおかない状況でありながらも、このたびの60周年記念事業への寄付協賛をお願い申し上げさせていただきましたところ、昨今の景気・経済状況厳しい折柄にも拘わらず、事情ご賢察のうえ心温まるご寄付ご協賛を賜りましたことに対しまして、ここに謹んで衷心より感謝御礼を申しあげます。

［白神自然観察園］設置事業等の実施

このたびの記念事業は全学同窓会等から構成される記念事業後援会及び企業・法人等からの寄付協賛金と、法人化後のメリットを活かした大学自体の資金活用による事業の連結組合せにより実施されましたが、後者による主たる事業として、その設置・運用に当たって農学生命科学部が主に担うことになる「弘前大学自然観察園」（園長：佐々木長市　農学生命科学部副学部長・教授）設置事業が実施されました。

本観察園は青森県西目屋に設置（メインエリア約18ha）し、学生や生徒・児童を対象に、ひろく人と自然の共生に関する自然環境教育や一般市民を対象とした実地教育・社会貢献の場として活用することを目的としているとのことでありますので、同窓の皆様方の積極的なご活用を期待しております。

新たな明日へ

実はこの中見出し、このたびの60周年記念事業の一環として歌詞・曲を全国公募により製作した「60周年記念歌」の題名と同じ表現でありますが、私は恐縮ながら、この字句・題名こそは、このたびの記念事業の趣旨・目的を表現してこの上ないものであると想うものであります。「60年」という年数は人間で言えば「還暦」。その意味するところは「60年で再び生まれた年の干支に還り、新たなスタートの始まり」とのことであります。

畢竟、そのような趣旨からいたしますならば、私共の母校・弘大はそれまでの国直轄の国立から国立大学法人という名の法人化がなされた平成16（2004）年４月から５年を経て、本・平成22年度から新たなる５カ年間の中期計画に即し、まさに「新たなる弘大づくりに向けて」の極めて重要な時期を迎えていることを再認識のうえ、弘大現職教職員はもとより、私共同窓生共々、このたびの60周年記念事業を更なる契機に、今改めて『世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学』の確かなる『新たな明日』の実現に向けて」の志・決意を確かめ合おうではありませんか。

事務局から

平成17－18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年６月１日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/）からもダウンロードできます。

教育・研究基盤の充実と地域連携を目指して

農学生命科学部長　鈴　木　裕　之

同窓会会員ならびに関係の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。同窓会長はじめ多くの会員の皆様のお知恵を頂戴しながら、教職員一丸となって農学生命科学部の管理運営と教育・研究の活性化に取り組んでおります。

さて、前号の同窓会報でも紹介いたしましたように、国立大学を巡る状況は大きく変化しております。弘前大学を含む国立大学が平成16年度に法人化され、競争原理の導入、戦略的な大学運営による個性豊かな大学つくり、社会貢献などが厳しく要求されるようになり、農学生命科学部・農学生命科学研究科でもこれまでの発想にとらわれない思い切った変革が必要になってきています。法人化後の６年間が第一期中期目標・中期計画期間と位置づけられ、平成21年度が第一期中期計画期間の最終年度に当たります。

平成20年度には、全ての国立大学法人に対して第一期中期目標・中期計画に掲げられた目標について、その達成度に対する教育研究評価がなされました。ここでは、大学全体としての中期目標・中期計画に対する達成度の評価だけではなく、各部局別についても詳しい評価がなされました。農学生命科学部・農学生命科学研究科においても、学部教育に対する評価、大学院教育に対する評価、さらには学部・大学院における研究に対する評価を受けました。独立行政法人大学評価・学位授与機構が指定した観点について、それぞれ自己申告した現況報告に基づいて評価されました。本学部では、上記に示した教育・研究に係わる全ての項目で、「期待される水準を上回る」または「期待される水準にある」と評価され、構成員一同安堵しているところです。

平成22年度からは第二期中期目標・中期計画期間が始まり、弘前大学として新たな目標を掲げております。本学部もそれらを達成できるよう準備しなければなりません。農学生命科学部は「生物学科を有する農学系の学部」という特徴を前面に出すべく、平成20年度に４学科から５学科に改組しました。現在、学年進行中ですが、開講科目の配置、実験・実習・演習の構成などを点検しながら教育の充実を図っております。この他、学生による授業評価、教育環境の整備状況、勉学あるいは就職の支援体制など、多方面に亘って評価を受けます。さらに、研究面では、科学研究費をはじめとする外部資金の獲得状況、成果の報告に至っては発表論文数ばかりではなく、質の高さが評価される仕組みになっております。

人件費を含む運営費交付金が毎年削減されている中で、教育・研究の質の向上が求められており、本学部としても最大限の努力を払い、教育体制や教員組織の見直しを進めてきております。自然に恵まれ、食料生産地域にある「生物学科を有する農学系の学部」として、この地に根ざす教育研究を充実させ、さらに積極的な、地域との連携・協力体制を構築していくことに、教職員や学生の叡智を結集させていきたいと考えております。

同窓会関係各位におかれましても、従前に変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、同窓会会員各位の益々のご健勝とご多幸を祈念いたします。

定年退職教職員からの寄稿～1

進路を決めたジャンケン

齊藤　寛

私は昭和39年４月、この年から新設された弘前大学園芸学科に入学した。仲間は40人だった。無事一般教養課程を終え、専門課程に進んだ。専門教育には期待を持っていた。期待通りの講義も、裏切られた感じの講義もあった。最初に行った学生実験は土壌学実験だった。本格的な化学実験を初めて経験し、その困難さを実感し、良い訓練になったと思っている。勘所を押さえて実験すれば能率良く実験できるということを。

さて、３年後期になって教室所属を決める時期となった。各教室の定員が示され、各自が自分の希望を出した。私が希望した教室への希望者は定員３名に対して５名となった。現在もそうであるが、定員増は認められなかった。５人でいろいろ話し合ったが、簡単に結論はでなかった。それじゃあジャンケンで決めようということになった。私は負けた。私は定員があいていた土壌肥料学教室を希望し、望月先生のご指導を受けることになった。テーマは、リンゴの光合成産物の分配におよぼす窒素施肥の影響という内容であった。窒素レベルを変えてリンゴ幼木を礫耕栽培し、^{14}Cを与えてその動きを追跡するものであった。実験は栽培を伴うので気が抜けなかったが、当時助手をされていた鎌倉さんのご指導・ご協力を得て楽しく行うことができた。

運良く、昭和42年４月東京国税局鑑定官室に就職でき、国税庁醸造試験所に出向し、酒の勉強をすることになった。１年間酒全般を楽しんで、昭和43年５月広島国税局鑑定官室に配置換えになった。先輩にいろいろ鑑定官室の仕事を教わっていた８月頃、望月先生から広島に行くので会いたいとの連絡があった。何かなと思いながらお会いしたところ、鎌倉さんが青森県りんご試験場に転勤することになったので助手として来ないかという内容であった。いろいろ考えた結果、申し出をお引き受けした。同年11月１日に広島国税局より、弘前大学農学部へ出向を命じるとの辞令を受け、今日に至っている。

農学部から農学生命科学部と学部名は変わり、学科編成が変わったことにより学科名もいろいろ変わったが、植物栄養学を担当し、リンゴの窒素栄養を主な研究テーマとしてきた。また、昭和47年総合温室とともに RI 実験室が完成し、それ以来、RI を使用した実験を行い、また、放射線取扱主任者として実験室の管理にあたってきた。遺伝子実験施設が完成して以来、RI 実験室の使用がほとんどなくなりお荷物になっていたが、このたび廃止の手続きをすることができ、ホッとしているというのが実感である。

今にして思えば、あのときのジャンケンの負けは、良きにつけ悪しきにつけ大きかった。

定年退職教職員からの寄稿～2

農家との交流

谷口　建

1994年に北海道の岩見沢から弘前に赴任してきました。運送会社の人と引越し荷物の受け渡しをしていた時に、話しかけてきたスピードの早い、意味不明の言葉に戸惑いを感じました。また、その年の秋に農家を訪れ、おじいちゃんに農業について質問した時です。話の内容が聞き取れず３回ほど質問を繰り返したら、奥の部屋に姿を消しました。同行した役所の方が言うには、「先生、しゃべるのは無理だけれど、ヒヤリングができなければね。」と笑われてしまったのを思い出します。

2000年に、旧尾上町の農家蔵の個数調査の依頼が舞い込みました。１年をかけて、ゼミの学生と調査を行った結果、この小さな町に336戸前の蔵があり、うち314戸前が農家蔵でした。昭和20年以前に建造された蔵が48%で、最も古い農家蔵は1862年に建造されました。蔵のほかに、津軽藩から伝承されてきた大石武学流・枯山水の農家庭園やさわらの生け垣が多数現存しています。これらの地域資源を活用した町おこしを行うため、2002年１月に尾上町蔵保存利活用促進会を立ち上げ、農家民泊と農業体験を主体とした活動を行うことにしました。

ファームステイを希望する農家では、これまで農作業体験指導や宿泊者の受け入れ経験がありません。2002年と2003年の２回、農学生命の学生の協力を得て、ファームステイの予行練習を兼ねた農作業体験と農家民泊を実施しました。2002年は、りんごがたわわに実った10月19・20日の１泊２日で、受入農家が４戸、参加学生が19名、2003年は、薄いピンク色のりんごの花が絨毯のように引き詰められた５月９～11日の２泊３日で、受入農家９戸、参加学生36名でした。この体験で、農家は交流の楽しさと受入のノウハウを、学生は農作業の厳しさと農業の大切さを学ぶことができました。学生のファームステイ協力は2007年まで続きました。また2002年から始めた学生によるボランティア「農家蔵・農家庭園めぐり」ガイドは、今も継続しています。

会は2003年８月に NPO 法人の認証を受け、主に教育旅行で訪れる北海道、関東、関西から中学生や高校生を受け入れています。現在、ファームステイで訪れる生徒や一般客は年間2,000人を超え、農家の副収入となっています。

私は、農家の指導を受けて、どうにか津軽弁が理解できるようになりました。感謝です。

定年退職教職員からの寄稿～3

弘前大学を去るにあたって

万木正弘

私が弘前大学に来たのは2000年で、今年でちょうど10年になります。10年ひと昔と言いますが、「そんな前になるのか」と言う思いがします。それまでは建設会社の研究所に勤めており大学に奉

職するとはあまり考えていませんでしたので、来た当初は見ることなすこと初めての経験で戸惑うことも多々ありました。特に教育についてはほとんど経験の無いまま担当することになったわけですが、この学科における私個人としての特徴は何かを考えたとき、これまでの私の実社会での経験を生すべき、と思いあたり、そういった観点からの教育に努めてまいりました。

各科目の教育内容に関して私の経験から言うと、それぞれの科目における個々の細かい知識を大学で教えることはそれほど重要ではないと思われます。大学を卒業して10年も経つと細かい内容はほとんど忘れてしまいます。個々の知識はそれが必要になったときに自分自身で身に付ければよいことで、大学では将来様々な問題に遭遇したときにその問題を自分で勉強し習得できる基礎的素養、今の言葉で言うなら「リテラシー」を身に付けさせることが最も重要と思います。私の担当である構造力学の分野で言えば、構造物の動き、耐荷能力、耐久性などの様々な現象を物理・化学的、力学的見地から判断でき、予測できる能力ということになります。そのような思いから、担当科目の中もできるだけ実社会に出てから応用が効くよう基礎的な項目を取り上げることに力を入れました。

それとまた、実社会に出て必要となる上の人への最低限の礼儀、言葉遣いなども授業の中で言ってきたつもりです。学生の言動を注意するときかなり強く言いましたので、「万木先生は怖い」との評判があったようです。それでも研究室には多くの希望者があったこと、卒業生が「万木先生の言ったことが今になってようやく分かった」と言ってくれたこと、等から学生にも私の気持ちも少しは伝わったかな、と弘前大学を去るに当たり一人で納得している今日この頃です。

また、我々の学科では技術者教育としてJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けていますが、その申請に当たっては同窓会から様々な援助、ご協力を受けました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

武田和義先生“日本学士院賞受賞”について

生物資源学科教授　石　川　隆　二

武田和義先生は昭和46年８月に旧農学部に赴任され、同51年に助教授、所属研究室は農学科育種学教室でした。当時は中山林三郎先生、齋藤健一先生がおられました。同56年に岡山大学に異動されるまでの11年間を弘前で過ごされたことになります。弘前大学ではイネの研究を熱心に進められておりました。昭和46年当時、育種学教室に回ってきた助手ポストはその後、昭和56年の私の赴任ポストになり、武田先生からは、「私が最初の育種学教室の助手で君が最後だな」といわれたものです。その後、旧農学部ならびに農学生命科学部を通じて育種学教室にそのポストはまわってこず、助手ポストは廃止されて助教ポストとして学部全体での研究教育における一翼を担っていただいております。

さて、2009年の日本学士院賞は「イネ科作物の遺伝資源学の確立とその実践的貢献」により受賞されました。武田先生いわく、「この受賞における研究の原点は弘前で行った研究だよ」とのことです。イネの大粒性を研究された結果から、粒が大きくなっても光合成能力の向上なくしては多収にはなりえないなど、その後の多収育種目標の解明に役立つ研究を発展させられました。実践的な貢献としては、中国黄土高原における乾燥ストレス耐性のオオムギの選抜手法の確立と品種育成を行ったことは日本の育種成果が世界で大きな成果

をあげたといえます。このように一貫して農学の発展に寄与されたことが日本学士院賞受賞につながったのでしょう。

武田先生は平成20年度３月にて岡山大学を退職され、現在は岡山大学特任教授という肩書きにおいて研究活動に従事しておられます。2009年10月には農学生命科学部同窓会ならびに同後援会にて武田ご夫妻を弘前にお招きし、学長御出席のもと60周年記念事業の一環として日本学士院賞受賞記念講演会を開催しました。当時、旧農学部温室横で栽培したトウモロコシの原種であるテオシンテの写真とともに写る当時の教え子さんの写真などを交えながら楽しい講演会でした。最近では“Feed the world”（世界に食料を）とのかけ声のもといかに農学が重要であるかについて、後輩に教えることが多いようです。いかに農学を実学として発展させるかについて、現在の農学生命科学部所属学生に講演していただきました。農学の基礎はやはり、飢えない社会を作ることだというお考えは弘前在住当時から変わられないようです。

記念講演会の当日の夕方に開催された祝賀会は育種学教室卒業生ならびに農学部当時におられた豊川元学部長、ならびに田辺元学部長を交えた楽しいひとときを過ごしました。その時の写真を掲載させていただきます。残念ながら、同席された田辺先生は心臓麻痺のため、2010年３月２日にご逝去されましたことをここに謹んでご報告させていただきます。

さて、祝賀会の席では当時の武田先生の“熱血”研究者ぶりが宴の話題をさらっておりました。昨年、岡山大学において開催された退官記念懇親会には、弘前大学からは齋藤寛先生ならびに私が出席してきました。印象深かったのは、武田先生が岡山大学に異動された時に後を追って同大学院に進学された斎藤さんのお話でした。武田先生の教えを活かして今ではビール醸造用オオムギの育種を積極的に進めておられるようです。このように弘前での武田先生の活動が大きく広がりをみせ、社会に広く認められたことは今後の同窓生、在校生のご活躍の励みにもなるのではないでしょうか。

2009年10月９日に開催された、祝賀会。武田ご夫妻以下、故田辺良則先生、豊川好司先生、原田幸雄先生、鈴木先生など出席されていました。

平成21年度卒業生・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成21年度の弘前大学卒業証書授与式が平成22年３月24日午前10時から弘前市民会館で行われた。農学生命科学部の卒業生は195名であった。大学院の学位記授与式は午後１時から弘前大学創立50周年記念会館で行われ、農学生命科学研究科修了生51人に対して、修士（農学生命科学）の学位が授与された。平成21年度末現在で、農学部と農学生命科学部を合わせての卒業生は6,214人に、研究科の修了生は農学研究科と農学生命科学研究科を合わせて758人になった。

授与式終了後、同窓会主催で恒例の記念写真撮影（学部校舎正面玄関前）が、学部・後援会との共催で祝賀会（大学会館）が行われた。

卒業・祝賀会にて

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各１名である）。以下に記す人数には早期修了者・平成21年９月卒業者数も含まれる。

生物機能科学科（卒業者数39人）
㈱スピーディア、㈱青森クボタ、㈱クリエイト　エス・ディー、環境保全㈱、㈱バイカル、バイエル薬品㈱、白石食品工業㈱、キッセイ薬品工業㈱、㈱県南衛生工業、(財)福島県保健衛生協会、(共済)盛岡地域農業共済組合、ヤンマー農機販売㈱東日本カンパニー、ホクレン農業協同組合連合会、東京税関、赤井川村職員、北海道警察、青森県立田子高校、青森県公立学校、弘前大学大学院(9)、東北大学大学院(3)、北海道大学大学院(2)、京都大学大学院

応用生命工学科（卒業者数55人）
アミューズ㈱、大日本住友製薬㈱、㈱アイネス、秋田しんせい農業協同組合、㈱ロイズコンフェクト(2)、全国農業協同組合連合会(2)、㈱ランバーテック、岩手缶詰㈱、日清医療食品㈱、(学)高宮学園（代々木ゼミナール）、㈱みちのく銀行、ホクレン農業協同組合連合会、第一生命保険相互会社、バイオメット・ジャパン㈱、山崎製パン㈱、大丸藤井㈱、㈱ケイシイシイ　小樽洋菓子舗ルタオ、岩井機械工業㈱、日新製薬㈱、㈱ユニクロ、㈱ユニバース、㈱もしもしホットライン、㈱東京設計事務所、東川町職員、神

奈川県警察、札幌市職員、弘前市職員、釧路市職員、登別市職員、弘前大学医学部、弘前大学大学院(17)

生物生産科学科（卒業者数65人）
西日本旅客鉄道㈱、山崎製パン㈱、富国生命保険相互会社、大栄フーズ㈱、㈱伊徳、森永乳業㈱、中央薬品㈱、㈱トーツー、㈱すずまる、国立大学法人弘前大学、㈱ピー・アール・オー、㈱アグリカルチャーセンター、㈱フードサプライジャスコ、全国農業協同組合連合会、㈱ベジテック、㈱柿安本店、英ウィメンズクリニック、㈱コハタ、東日本旅客鉄道㈱、㈱井セキ東北、㈱パーペル、青森県農業共済組合連合会、㈱フードサービスネットワーク、青森三菱電機機器販売㈱、いなば食品㈱、㈱ベジテック、㈱コハタ、日本甜菜製糖㈱、東京ほくと医療生活協同組合、松岬園(自営)、防衛省・自衛隊(2)、弘前地区消防事務組合(2)、弘前市職員(2)、盛岡市職員、茨城県職員、東京消防庁、弘前大学大学院(15)

地域環境科学科（卒業者数37人、うち17名は JABEE プログラムの卒業者）
ユアサプライムス㈱、生活協同組合コープさっぽろ(2)、青森県農業共済組合連合会、郵便事業㈱(2)、ＩＴエンジニアリング㈱、㈱ＤＴＳ、ヤンマー農機販売㈱東日本カンパニー、㈱マエダ、㈱エム・テック、㈱伊藤園、アイウォーク㈱、NTT 北海道テレマート㈱、㈱ランドコンピュータ、野田塾、藤村機器㈱、北海道公立大学法人札幌医科大学、千葉県警察、秋田県職員、千葉県公立学校、弘前大学大学院(7)、北海道大学大学院(2)

大学院農学生命科学研究科（修了者数51人）
㈱アイシーエス、㈱エスペラントシステム、㈱カナエ、㈱クレスト、㈱シー・アイ・シー(2)、㈱シジシージャパン、㈱パスコ、㈱フレンテ、㈱マルマ、㈱ユニバース、㈱金星、㈱十文字チキンカンパニー、㈱西利、㈱富士通アドバンストソリューションズ、(有)ファーム富田、(有)元札内農場、ＪＡ全農たまご㈱、ＭＩＣメディカル、WDB エウレカ㈱、アサヒビール㈱、エヌ・ティ・ティ・コムウェア㈱、トリックスターズアレア(有)、ホシザキ東北㈱、よつ葉乳業㈱、岩下食品㈱、北海道信用農業協同組合連合、六花亭製菓㈱、大学生活協同組合東北事業連合、大正富山医薬品㈱、大塚製薬㈱、地方独立行政法人　青森県産業技術センター、東京地下鉄㈱、東洋水産㈱、日鉄環境プラントソリューションズ㈱、財団法人　日本乳業技術協会、秋田魁新報社、森産業㈱、青森県警察、青森市職員(2)、釧路市職員、山形県職員、北海道札幌白陵高等学校、岩手大学大学院連合農学研究科(3)

新任教員の自己紹介

鳥　丸　　猛　助教（生物学科　生態環境コース）

2009年４月に森林生態学研究室の助教に着任しました鳥丸（とりまる）です。これまでブナ林の森林群集を対象に研究を展開してきました。樹木がどのように子孫を残しながら集団を維持しているのか、つまり樹木の「生き様」について個体・遺伝子レベルの両方のアプローチを用いて研究しています。ここ青森は、白神山地、八甲田連山などに優れた森林が数多くあり、森林生態学の重要な課題を追求できる格好の場所と考えています。また、学生諸氏に対しましては野外実習等を通じてこの青森の自然のすばらしさを伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

田　中　紀　充　助教（園芸農学科　園芸農学コース）

2009年５月に農学生命科学部に着任致しました。30年岩手暮らしを続けてきて、初めての県外生活が始まりました。北国育ちのため暑いところが苦手なので弘前の気候は最適です。これまではリンゴの単為結果性(種なし)の機構、花芽形成および花器官形成遺伝子の機能について研究してきました。リンゴ栽培を簡単にできる方法について、メカニズムの解明を進めております。弘前はリンゴの大産地で栽培・管理方法が岩手と異なっているため、いろいろなことを新しく吸収していきたいと思っています。これからもリンゴの研究ができることを楽しみに果樹に関する様々な研究に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願い致します。

石　塚　哉　史　　准教授（園芸農学科　食農経済コース）

平成21年10月に農学生命科学部に着任致しました。東京農業大学大学院を修了後、農林水産省所管の公益法人において特用農作物の振興及び調査・研究事業に携わってきました。農業経済学を専門とし、わが国の食品企業によるアジア諸国（中国、ベトナム、ミャンマー等）への進出に着目し、その企業行動が国内農業及び農業関連産業に対していかなる影響を与えているのかを現地でのマーケティング戦略から実証的に分析しています。今後は、農業のグローバル化が進展する中で青森県農業が持続的発展を行えるよう研究活動を行うと共に、教育面では地域農業の担い手となる人材育成を目指したいと考えております。今後も何かとお世話になろうかと思われますが、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

教職員人事

退　職

平成22年３月末日

齊藤　　寛（さいとう　ひろし）
准教授（生物資源学科）

谷口　　建（たにぐち　けん）
教授（地域環境工学科）

万木　正弘（ゆるぎ　まさひろ）
教授（地域環境工学科）

採　用

（新任）

鳥丸　　猛（とりまる　たけし）
助教(生物学科)　平成21年４月１日

吉仲　　怜（よしなか　さとし）
助教（園芸農学科）　平成21年４月１日

田中　紀充(たなか　のりみつ)
助教（園芸農学科）　平成21年５月16日

石塚　哉史（いしつか　さとし）
准教授(園芸農学科)　平成21年10月１日

（昇任）

張　　樹槐（チャン　シューファイ）
教授(園芸農学科)　平成22年１月１日

（特任）

村山　成治（むらやま　せいじ）
特任教授（金木農場）平成21年４月～12月

会費納入と住所通知のお願い

平成21－22年度会費5,000円を未納の方は、同封致しました振込用紙でお納め下さいますようお願い致します。なお、既に平成21－22年度会費をお納め下さいました会員様には振込用紙を同封しておりません。

転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

同窓会事務局

〒036-8561　弘前市文京町３　弘前大学農学生命科学部同窓会

工藤　　明　　電話　0172－39－3842（FAX 兼用）　E-mail　akudo@cc. hirosaki-u. ac. jp
松﨑　正敏　　電話　0172－39－3804　E-mail　mma@cc. hirosaki-u. ac. jp
田中　和明　　電話　0172－39－3816　E-mail　k-tanaka@cc. hirosaki-u. ac. jp

平成21－22年度 同窓会総会報告

平成21－22年度総会が、平成21年７月４日15時から弘前市のホテルニューキャッスルにおいて開催されました。同窓会長と学部長の挨拶に続き、平成19－20年度事業報告および決算報告、平成21－22年度事業計画、予算および役員案について、事務局より報告・提案され質疑応答の後、原案通り承認されました。総会終了後には懇親会が行われました。

１．平成19－20年度事業報告

(1) 平成19年度事業報告

H19. 4. 7	卒業生・修了生へ記念写真の送付（20年度からは当日の手渡しに変更）
H19. 5.17	母校援助費（30万円）納入
H19. 6. 4	同窓会報第25号発行
H19. 6. 4	全学同窓会会費の納入（平成19年度分）
H19. 6.22	同窓会役員会（農学生命科学部）
H19. 7. 7	同窓会総会（黒石市：グリーンパレス松安閣）
H19. 7.19	金木農場50周年（醸金10万円：三上会長・松崎教員出席）
H19. 7.20	上十三支部総会（十和田市：レストランとわだ）（高橋学部長・加藤教員出席）
H19. 9.21	同窓会報の在学生家族への送付
H20. 3.21	卒業・修了生同窓会入会祝賀会

(2) 平成20年度事業報告

H20. 5.26	母校援助費（30万円）納入
H20. 6. 4	全学同窓会会費の納入（平成20年度分）
H20. 6. 1	佐々木元学部長を偲ぶ会へ献花（２万円）
H20. 6.30	同窓会報第26号発行
H20. 9.26	同窓会報の在学生家族への送付
H21. 3.24	卒業・修了生同窓会入会祝賀会

＜参考＞

（平成21年度）

H21. 5.25	同窓会報第27号発行
H21. 7. 4	同窓会総会（弘前市：ホテルニューキャッスル）

総会の様子

盛り上がった懇親会

2．平成19－20年度決算報告

収　入

項目	項　目	H19－20年度予算(案)	H19年度	H20年度	H17－18年度決算	H19－20年度決算	達成率(%)	摘　要
A	繰越金	¥4,967,321	¥4,967,321		¥2,735,953	¥4,967,321	100%	
B	正会員会費	¥2,500,000	¥1,640,000	¥970,000	¥3,627,500	¥2,610,000	104%	522名
C	入会費	¥2,780,000	¥1,020,000	¥1,380,000	¥3,020,000	¥2,400,000	86%	240名
D	利息	¥300	¥4,435	¥5,382	¥214	¥9,817	3272%	
E	振替手数料	¥－77,800	¥－41,620	¥－35,680	¥－81,500	¥－77,300	99%	
F	その他	¥0	¥135,000		¥75,000	¥135,000		
	合計	¥10,169,821	¥7,725,136	¥2,319,702	¥9,377,167	¥10,044,838	99%	

支　出

項目	項　目	H19－20年度予算(案)	H19年度	H20年度	H17－18年度決算	H19－20年度決算	達成率(%)	摘　要
1	会報発行費	¥3,000,000	¥1,180,000	¥1,302,660	¥2,703,899	¥2,482,660	83%	
2	卒業祝賀会費	¥1,100,000	¥873,366	¥282,520	¥513,967	¥1,155,886	105%	3年分
3	支部派遣費	¥240,000	¥153,000	¥0	¥83,400	¥153,000	64%	
4	母校援助費	¥600,000	¥300,000	¥300,000	¥520,000	¥600,000	100%	
5	総会経費等	¥200,000	¥261,030	¥0	¥160,620	¥261,030	131%	
6	庶務・管理費	¥40,000	¥42,750	¥30,000	¥28,473	¥72,750	182%	
7	通信・印刷費	¥50,000	¥23,770	¥46,645	¥50,330	¥70,415	141%	
8	慶弔費	¥100,000	¥10,286	¥20,000	¥53,157	¥30,286	30%	
9	全学同窓会会費	¥296,000	¥148,000	¥148,000	¥296,000	¥96,000	100%	
10	予備費（繰越）	¥4,543,821			¥4,967,321	¥4,922,811	108%	
	合計	¥10,169,821	¥2,992,202	¥2,129,825	¥9,377,167	¥10,044,838	99%	

H17－18収入	¥6,641,214
H17－18支出	¥4,409,846
H17－18収支	¥2,231,368

H19－20収入	¥5,077,517
H19－20支出	¥5,122,027
H19－20収支	¥－44,510

＊H17－18期では、卒業祝賀会関連の出費が1年分だったことと、50周年事業に伴う、会費収入の増加により数字上大きな黒字が出ている。

＊H19－20期では、卒業祝賀会関連の出費を3年分しているため、数字上赤字が現れている。

3．平成21－22年度事業事業計画

(1) 総会の開催
(2) 役員会の開催
(3) 同窓会会報の発行（第27、28号）
(4) 支部活動への援助（教員・役員の派遣）
(5) 卒業・修了生同窓会入会祝賀会
(6) 農学生命科学部への援助
(7) 全学同窓会への援助
(8) その他必要と認められる事業

4．平成21－22年度予算

収　入

項目	項　目	H21－22年度予算(案)	H19－20年度実績	H19－20年度予算(案)	前期比(%)	摘　要
A	繰越金	¥4,922,811	¥4,967,321	¥4,967,321	99%	
B	正会員会費	¥2,600,000	¥2,610,000	¥2,500,000	104%	520人×@5,000
C	入会費	¥2,400,000	¥2,400,000	¥2,780,000	86%	(185人×@10,000×0.65)×2年
D	利息	¥10,000	¥9,817	¥300	3333%	
E	振替手数料	¥-80,000	¥－77,300	¥－77,800	103%	(入会＋定期会費)納入予想×@100
F	その他	¥100,000	¥135,000	¥0		総会会費等の特別収入
	合計	¥9,952,811		¥10,169,821	98%	

支　出

項目	項　目	H21－22年度予算(案)	H19－20年度実績	H19－20年度予算(案)	前期比(%)	摘　要
1	会報発行費	¥2,650,000	¥2,482,660	¥3,000,000	88%	年1回×2年分(H19－20では3年分出費)
2	卒業祝賀会費	¥900,000	¥1,155,886	¥1,100,000	82%	(H19－20では3年分出費)
3	支部派遣費	¥200,000	¥153,000	¥240,000	83%	
4	母校援助費	¥520,000	¥600,000	¥600,000	87%	H19－20会費収入の1割（501万×0.1）より、26万円×2年分
5	総会経費等	¥280,000	¥261,030	¥200,000	140%	
6	庶務・管理費	¥100,000	¥72,750	¥40,000	250%	学生アルバイトの活用の促進
7	通信・印刷費	¥100,000	¥70,415	¥50,000	200%	父兄への会報発送費用の負担増
8	慶弔費	¥50,000	¥30,286	¥100,000	50%	
9	全学同窓会会費	¥296,000	¥296,000	¥296,000	100%	@148,000×2年
10	予備費（繰越）	¥4,856,811	¥4,922,811	¥4,543,821	107%	
	合計	¥9,952,811		¥10,169,821	98%	

5．平成21－22年度役員

役職名	氏名	勤務先	卒業年	教室名
名誉会長	鈴木裕之	弘前大学農学生命科学部長		
顧問	岩井邦彦	元農学部同窓会長	32	土肥
	中尾良仁	元農学部同窓会長	32	土肥
	油川孝男	元農学生命科学部同窓会長	37	農経
	豊川好司	元弘前大学農学生命科学部長	38	畜産
	高橋秀直	前弘前大学農学生命科学部長		
会長	三上巽	(株)青森ケーブルテレビ社長	42	農経
副会長	田村優一	元青森県農林水産部長	46	育種
	須藤正光	弘前市水道部長	47	農地
	窪寺洋志	元青森県農協中央会参事	49	農機
監事	工藤啓一	元弘前大学農学生命科学部	38	作物
	西川明満	元青森県農協中央会	45	作物
評議員	池田八郎	元八戸市役所	43	植病
	工藤信裕	元青森県庁	45	水利
	蒔苗龍一	(株)東北建設コンサルタント	45	農地
	木村利幸	青森県産業技術センターりんご研究所	48	昆虫
	塩谷彰	青森県農林水産部りんご果樹課	50	果樹
	菊池孝夫	平川市役所経済部	52	作物
	泉完	弘前大学農学生命科学部	53	水利
	蛯名正樹	弘前市役所建設部	53	農地
	工藤博喜	津軽みらい農協	54	果樹
	古館行雄	三本木農業高校	55	蔬花
	今智之	青森県産業技術センターりんご研究所	56	育種
	奈良岡馨	青森県産業技術センター弘前地域研究所	56	農利
	天内洋之	芝管工(株)	56	農機
	田中満	柏木農業高校	58	育種
	駒井秋浩	柏木農業高校	59	果樹
	吉田渉	弘前大学農学生命科学部	平元	生物
	加藤幸	弘前大学農学生命科学部	平4	造施
	鳴海純	弘前実業高校	平6	果樹
	福田和光	大鰐町役場	平19	水利
総務幹事	工藤明	弘前大学農学生命科学部	47	水利
情報幹事	松崎正敏	弘前大学農学生命科学部	62	畜産
会計幹事	田中和明	弘前大学農学生命科学部	平15	植病(院)

一部、卒業生の皆様に、「弘前大学同窓名鑑」作成のための調査カードが届いているようですが、この名鑑作成に当同窓会ならびに弘前大学同窓会は関わっておりません。

支部だより

秋田支部総会　出席報告

2010年２月６日に秋田市のイヤタカにて、同窓会秋田支部の総会が行われました。当日は公共交通機関のダイヤが大幅に乱れるようなあいにくの天気でしたが、32名の方が出席されました。大学からは齋藤寛（土壌肥料）および田中和明（植物病理）が参加させて頂きました。

総会では、経過報告、会計報告、規約改正等について話し合われ、また秋田支部会役員として、会長：松本勤氏（Ｓ39年卒、植物病理）、副会長：三森一司氏（Ｓ49年卒、土壌肥料）・伊東公士氏（Ｓ50年卒、昆虫）、事務局長：鈴木長彦氏（Ｓ51年卒、畜産）が選任され承認されました。

総会の後、同会場で懇親会が行われました。会のなか、大学ならびに農学生命科学部の近況報告として、学部改組後の学科体制や、あらたに建造された「コラボ弘大」に関すること、また「白神植物園」の研究・教育構想について、齋藤先生より紹介がありました。出席者からの近況報告もありましたが、これまで同窓生とは知らずに関連する仕事をされていた方々もおられたようで、思わぬ繋がりに話が盛り上がっていたようです。

なお、以下の集合写真は村上章氏（Ｓ56年卒、生化）よりご提供頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。　（田中和明）

訃報

今　河　英　男　先生（元教授、農経）
田　辺　良　則　先生（元教授、農経）
内　海　賢　治　　氏（農業水利Ｓ48年卒）
油　川　孝　男　　氏（元同窓会長、農経Ｓ37年卒）

上記の会員がご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい (http://nature. cc. hirosaki-u. ac. jp/dosokai/)